



ひびき 南山田小学校だより

Letter of the M.Y. elementary school

～ ともだちいっぱい！ かがやく子 ～

学校通信 NO.287
令和元年度 2月号
令和2年 1月31日

～ 「どんど焼き」と「節分」 ～

副校長 志波 亮

1月12日、山田富士公園で毎年恒例の「どんど焼き」が行われました。そもそも、「どんど焼き」とは、年末年始に飾った門松や注連縄飾り、書初めで書いたものなどを持ち寄って焼き、その火で焼いた餅を食べるとその年の病を除くといわれているものです。また、書初めが炎で高く上がると字が上達するともいわれています。当日は、お天気に恵まれ、地域から多くの子ども連れのご家族が参加されていました。点火されて、一気に炎が大きく舞い上がると、歓声上がり、その迫力に私も圧倒されました。本校の子どもたちもこの地域行事に多数参加していたようで、たくさんの笑顔とあいさつを私とも交わしてくれました。本校児童や保護者の皆様はもちろん、地域の皆様の今年1年のご健康を心より願うばかりです。（写真は実際に点火した時のものです。）



さて、2月3日は節分です。ご存知の通り、もともと節分は年に4回あります。それぞれの季節の始まり（立春2/4、立夏5/5、立秋8/7、立冬11/7）の前日の日をいいます。また、その名の通り、「季節を分ける」ことも意味しています。江戸時代後期になると、特に、立春の前日を節分というようになったようです。なぜでしょう。節分にあたる日の2月4日ごろは、大寒を過ぎ、1年のうちでもっとも気温の低い時期です。これから次第に気温が上がり、日も長くなり、春になって田畑の仕事も行われるようになります。昔の人たちは、ここから新しい1年の田畑の仕事や生活が始まると考えたからだともいわれています。一般的には「鬼はそと～！福はうち～！」と声をあげながら福豆（煎り大豆）をまいて、歳の数だけ（もしくは1つ多く）豆を食べて厄除けを行う伝統的な行事です。

私は、よくこの季節になると、子どもたちに「心の中の鬼を追い出そう！」と声をかけたことを思い出します。誰でも弱い心は持ち合わせています。その心の弱さは鬼とまでは言わないまでも、なかなか手強い相手です。誰しものが何とかして打ち勝たたいものですが、それは大人でも容易ではありません。子どもたちならなおさらです。だからこそ、子どもたちには、大好きな友達や家族、地域の方、そして先生方と共に力を合わせ、がっちりとスクラムを組み、自分の弱い心と素直に向き合い、打ち勝って成長してほしいと切に願います。令和元年度も残り2カ月となりましたが、今後とも、家庭・地域・学校が密に連携をとり、子どもたちの健全育成に誠心誠意努めてまいります。どうぞご支援、ご協力をお願いいたします。

私は、よくこの季節になると、子どもたちに「心の中の鬼を追い出そう！」と声をかけたことを思い出します。誰でも弱い心は持ち合わせています。その心の弱さは鬼とまでは言わないまでも、なかなか手強い相手です。誰しものが何とかして打ち勝たたいものですが、それは大人でも容易ではありません。子どもたちならなおさらです。だからこそ、子どもたちには、大好きな友達や家族、地域の方、そして先生方と共に力を合わせ、がっちりとスクラムを組み、自分の弱い心と素直に向き合い、打ち勝って成長してほしいと切に願います。令和元年度も残り2カ月となりましたが、今後とも、家庭・地域・学校が密に連携をとり、子どもたちの健全育成に誠心誠意努めてまいります。どうぞご支援、ご協力をお願いいたします。